

1854年のMissouri 州 Hannibal の地図、その再構築の試み

Re-Construction of the Map of Hannibal, Missouri, in 1853

和 栗 了

序

Mark Twain (1835年～1910年、本名 Samuel Langhorne Clemens) は1853年6月の半ば頃に Missouri 州 Hannibal を出奔した。以後彼がこの町で生活することはほとんどなかったが、この町は Twain の作品の中で非常に大きな意味を持っている。例えば *The Adventures of Tom Sawyer* (1876年出版、以下 *Tom* と略す) と *Adventures of Huckleberry Finn* (1884年出版、以下 *Huck* と略す) の St. Petersburg は1850年前後の Hannibal だと考えられる。*Pudd'nhead Wilson & Those Extraordinary Twins* (1894年出版) の Dawson's Landing も1850年頃の Hannibal をもとにしている。最晩年の小説 *No. 44, The Mysterious Stranger* (1969年出版) のオーストリアの Eseldorf も冬の Hannibal がモデルになっている。

Twain は1840年頃の Hannibal の記憶も1853年以降の Hannibal に関する情報もあわせて作品化しており、1853年頃の Hannibal だけが Twain の作品のもとになったわけではない。いくつもの要素が複合したフィクションとしての Hannibal が Twain の中に出来上がっていたのであり、その虚構の Hannibal をもとに Twain は作品を書き上げたのである。あるいは、Twain の St. Petersburg はあくまで虚構なのだと言えよう。しかしながら、1853年に17歳で家出した Twain が最後に見た故郷の印象は著しく、それを土台にして虚構の Hannibal を形成したのも事実だ。つまり、Twain の中の Hannibal の主な部分は1853年の Hannibal だったと言える。だとすれば、1853年、あるいはできる限りそれに近い頃の Hannibal の地図の再構築は十分な意味がある。Twain がフィクションとして何を実際の Hannibal に付け加え、現実の Hannibal の何を作品化しなかったのか分かってくる。さいわい、1854年にこの田舎町の地図が出版されている。この論文ではこの地図を考察し、再構築につなげたい。

1

New York 市 Pearl Street140番地にあった Hart & Mapother 社が1854年に Hannibal のリトグラフ版の地図を発行したが、この地図の現物はたぶん一葉も現存しない。この地図は

Hannibal 公共図書館 (Hannibal Free Public Library) にも、Missouri 州 Florida の Twain 生誕地博物館 (Mark Twain Birthplace Museum) にも、Hannibal Lagrange 大学にも、Missouri 州立大学にもない。Hannibal の Twain 少年時代博物館 (Mark Twain Boyhood Museum) のガラスの陳列ケースの中にぼろぼろに変色した地図があるが、これは1854年のものではなく、1869年の地図である。

この1854年の Hannibal の白黒のリトグラフの地図に彩色を施し、絵画のようにしたものが作られた。そのたぶんコピーが *The Story of Hannibal* (1976年出版) の著者 Roberta Hagood 女史の部屋に飾ってある。少なくとも2011年8月に飾ってあったものの複写が筆者の手元にある¹。Hagood 女史のご厚意により以下に引用する。



図1

この地図は主な建物の名前が書き込まれていて興味深い。例えば、豚肉の処理施設（地図中には“PORK PACKING HOUSE”と記されている）が地図上に三ヶ所確認できる。South Hannibal 地区のさらに下流の河岸と、Bear Creek の河口から少し上流の岸部と、連絡船の船着き場（地図中の“Ferry Landing”）の上流の岸の三ヶ所である。いずれも Mississippi 河の近くにある。また、Twain が作品に使った可能性のある屠殺所（地図中に

は“SLAUGHTER HOUSE”と記されている）もある²。逆に、1853年1月に焼失した留置場が書かれていないことから³、それ以降にこの地図が作成されたことが分かる。ということは、Hart & Mapother 社の土地測量士かそれに近い人物が1853年の、たぶん夏頃に Hannibal の土地や建物を調査、測量し、54年に出版したと推測できる⁴。

53年夏頃に調査しただろうと推測する根拠は、Mississippi 河の水位が低いことである。Mississippi 河は上流の雪解けとともに水位が上昇し、年によっては7月でも水位が高い。この地図では船着き場（地図中の“LEVEE”）が水没していないし、連絡船乗り場も Glascock's Island も大きく描かれている。何よりも“LEVEE”の下に“Low Water Mark”と記されている。つまり、水位の低い8月頃に調査した可能性が高い。もちろん、1854年の夏に調査し、その年の終わりまでにこの地図が出版された可能性もある。どちらにせよ、この地図は8月の水位の低い頃の町の姿である。

他にも興味深い施設がこの地図に描かれている。そのひとつが製材所（地図中には“Saw Mill”とある）である。これも河沿いの上流に一ヶ所と連絡船乗り場の上流側の奥に一ヶ所、合計二ヶ所あった。ここで製材される材木の多くが上流で筏に組んでこの町まで運ばれてきた。Tom にも Huck にも登場する筏はこの町の河上地区でよく見られたものと言える。付け加えれば、製材業は19世紀半ばの Hannibal の主要な産業だった。

別の観点から興味深い建物として、Center Street と Eighth Street の交差する北東角にアフリカ系アメリカ人の教会（地図中には“AFRICAN CHURCH”と記されている）が描かれている。この地区は後に Douglassville と呼ばれるようになったところで、今日でもアフリカ系アメリカ人が多く住んでいる⁵。1852年の Hannibal 市条例には自由黒人、混血、奴隷、奴隷所有者に関する規定があり、奴隷ではないアフリカ系住民と混血の人々が住んでいたことがわかる。この条例は自由黒人が夜9時以降許可なく外出することを規制する条例で、厳格に施行された⁶。この市条例には、同時に、白人が自由黒人や混血による許可された集会を妨害してはならないと規定されている。妨害した白人は5ドル以上50ドル以下の罰金が科せられた。これは安くない罰金であり、Hannibal は厳しい条例で非白人の集会を保護していたことがわかる。

同じく1852年の市条例に基づき、Market Street に市場が開設された。この市場も地図に描かれているし、“MARKET STREET”と表記されている。この市場の管理のために責任者が任命され、売り場もはっきりと区分けされ、営業時間や馬車の出入り方法まで規定されていた。少なくとも開設当時は賑わっていたに違いない。後述するが、Tom に市場は登場しない。

ここで、Mark Twain が少年時代を過ごした家を地図上で確認する。Clemens 一家は1839年に Missouri 州 Florida から Hannibal に移住し、しばらくの間 Hill Street と Third Street の北西（山側）の角の家で雑貨店を営んだ。彼の父親 John Marshall Clemens (1798-1847) が1844年に今日の Mark Twain Boyhood House を購入し、増築し、一家は移

り住んだ。Hill Street に沿って、ちょうど一区画ほど Mississippi 河の方に移動したことになる。1846年に一家はほぼ破産し、Hill Street を隔てた Grant 医師の家の二階に間借りし、1847年の父親の死後、Boyhood House に戻った。1839年にやって来て1853年に Hannibal を後にするまでの14年間に少なくとも4ヶ所の家に住んだが、Clemens 一家にとって「家」は父親が建てた Boyhood House なのだろう。いずれにせよ、少年 Twain の「家」は Hill Street に面した Third Street から Second Street の周辺だったと言える。およそ100メートルの範囲内のどこかが Twain の「家」だったのである。

作品の中で印象的に使われているいくつかの場所の位置を地図上で確認する。まず、Twain が通った学校は Mary Newcomb が教える学校で、Horr 夫人も教えていた。これは、Bird Street と Hill Street に挟まれ、Fourth Street に面していた長老派教会の建物を使って営まれていた。Twain の「家」からは150メートルほどの距離にあった。

地図上に墓地が記されているが、これは Tom の中で Robinson 医師が殺害される墓地ではない。Tom に登場する墓地は1837年建設の Baptist Cemetery だと考えられている。この1854年の地図の北西角、右上の角の外側にあり、地図の範囲外になる。だが、この墓地は Twain の「家」から見える丘の少し内陸にあった。「家」から少し遠いのである。

このように地図で場所を確認すると、Tom と Huck に描かれる少年たちの冒険をある程度地理的に分類できる。話を Tom に限れば、Jackson's Island と洞窟探検の場面を例外として、Tom の冒険は家の周辺で行われていることが多い。川遊びは Mississippi 河か、かつて連絡船船着き場の少し上流にあった小川でのことだろうし、学校は Public Square か Fourth Street のどちらかにあった。墓地は作品中の Cardiff Hill、地図上では連絡船船着き場の西側の丘を尾根伝いに歩いて5分ほどの距離にある。筏での冒険も製材所に係留されていた筏に乗ったと解釈すれば、「家」から歩いてすぐである。留置所は Second Street を2区画ほど河上に行ったところにあったので、これも「家」から近かった。

逆に、島での冒険と洞窟からの脱出劇は「家」から2マイルほど離れている。作品中の Jackson's Island が現実の Glascock's Island だとすれば、直線距離で1マイル以上離れている。作品中の洞窟が今日の観光地の Tom Sawyer's Cave だとすれば、Mississippi 河の岸を下流に歩いて2マイル以上歩くことになる。

Tom に描かれる冒険が「家」の周辺と「家」からかなり離れたところとに大きく二分化できるとすれば、その文学的意味を Twain の家への執着と家からの逃亡だと解釈することもできる。あるいは、Twain の実体験が「家」の周辺のエピソードであり、Twain が取材して書いた部分が「家」から離れた冒険物語だとも考えられる。他にも解釈が出てくるだろうが、ここでは地図の再構築に資するのが目的であり、このテーマを別の機会に譲る。

これも文学的解釈になり本格的論考は別の機会に譲るが、Tom でほとんど言及されていないことがある。そのひとつはアフリカ系住民の教会であり、自由黒人の存在である。

これは Injun Joe のモデル、Joe Douglass と関係し、さらに Joe Douglass を賞賛した Hannibal の町の人々、特に母親 Jane Lampton Clemens (1803-1890) と Twain との関係にも発展する。また、市場のことも、Bear Creek のことも、丘を越えて内陸に入った平原のことも、*Tom* には書かれていない⁷。Hannibal の産業であった、材木、豚肉加工、タバコのことは作品に書かれているのに、農業のことは書かれていない。Hannibal に農業はなかったのだろうか。Clemens 一家は「家」の庭で野菜や花を育てなかったのだろうか。作品とこの1854年の地図を相互参照しながら *Tom* と地図の両方を読む時、この地図が教えてくれるものはまだまだ尽きない。

2

一方、この地図には少し見慣れない情報が書き込まれている。それは土地の所有者の名前である。元々の Hannibal の50区画に関して詳しく見れば、例えば、46区画（図2）の多くの部分は Zachariah G. Draper (1798-1856) が所有している。彼は Hannibal 建設以来の名士であった⁸。23区画（図3）の半分は、Joshua P. Richards (1816年生まれ?) が所有していた。彼は石工で、日曜学校の教師も務めていた⁹。逆に、43区画（図4）のように所有者がいたはずなのに何も書いてない区画もある。

46区画

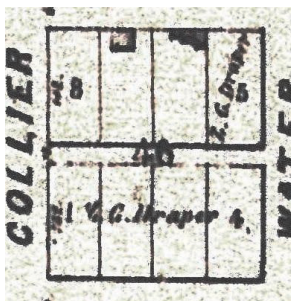


図2

23区画

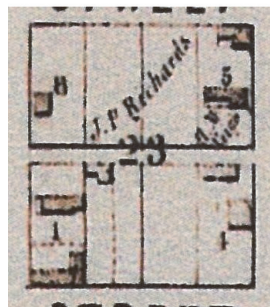


図3

43区画

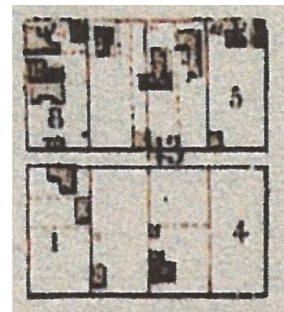


図4

また、すべてに当てはまるわけではないが、図2と図3から明らかなように、空き地と思われる区画に土地所有者の名前が記されている例がある。建物がある区画に土地所有者の名前が書かれている例もあり、一概には言えないが、空き地を買いたいと思った人にとってこの地図は便利だったろう。あるいは土地購入に関心のある人にとってこれは興味深い地図だった。

もともとなぜ1854年に Hannibal の地図が作成されたのか疑問である。1850年の人口調査で白人が2020人しかいなかった寒村の地図が存在したこと自体が不思議だ¹⁰。1850年頃、

Mark Twain はまだ誕生しておらず、Samuel Clemens はインクで汚れた手をした植字工でしかなかった。1850年代に Hannibal は Missouri 州北東部の産業の中心地に発展したとしても、Hannibal は田舎町だった。注目に値する町ではなかった。この町の地図を作っても一般には売れなかっただろう。なぜ、Hart & Mapother 社は1854年に Hannibal の地図を発行したのか。地図そのものに答えがある。

この地図には一部の地主の名前が記載されていた。もちろん1853年頃の Missouri 州 Hannibal が小さな寒村にすぎず、書き入れる情報がほとんどなかったので、土地所有者名を書き入れたとも考えられる。だが、それでは所有者名が記入されていない区画の説明がつかない。どの区画も所有者は決定していたはずである。

Hart & Mapother 社の他の都市の地図は必ずしも土地の所有者名を記載してはいない。例えば、図5とその拡大図の図6からわかるように、Kentucky 州 Louisville の地図には土地の所有者は書き込まれていない。この時代の他の出版社の地図にも土地の所有者名が記載された地図は少ないだろうと推測される。1854年の Hannibal の地図は当時の常識的な地図とは異なるのである。

一方、他の出版社による Hannibal の地図に土地所有者が記載されている例も見当たらない。図7に引用したように、1869年出版の Hannibal の地図は Illinois 側から見た鳥瞰図であり、土地所有者を書き入れることはできない。19世紀中頃に中西部の町を描いた一般的な地図で、土地所有者名が記されている地図は、何か特別の意図のもとに作成されたとは考えられない。

Hart & Mapother 社の Kentucky 州 Louisville の地図とその任意の部分拡大図¹¹、および、他の出版社による1869年の Hannibal の地図¹²



図5

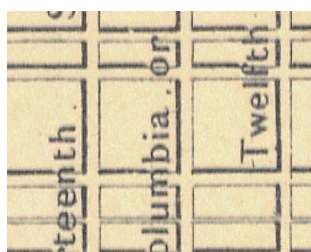


図6



図7

土地への執着心が強かった者達がこの地図を作らせたと考えた方がよい。Hart & Mapother 社が土地台帳が税金の台帳を確認してこの地図を作製したとも考えられるが、それではやはり所有者名の記されていない区画の説明がつかない。この地図は網羅的に土地所有者名が記載された地図ではないのだ。1850年頃のこの村で、誰がどの土地を持っているか、誰が町の有力者であるかを、何人かの人々が表現したいと願い、それを表現した

のがこの地図になったのだろう。

1854年に **Hannibal** の地図が出版された理由は、1853年当時のこの村の住民達が何かを記して残したいと願った、それが土地所有者名の記載だと解釈するのは読み過ぎではないだろう。名前を記されている **Draper**、**Robards**、**Joshua P. Richards** といった当時の村の有力者たちがこの地図を作らせた、あるいはこの地図を作るのに積極的に参加したと考えるのが順当だ。もちろん、この **Hart & Mapother** 社が確実に売れることを計算して、なかば宣伝目的の測量を通じて、地図の作成と販売を行ったことは想像に難くない。成長しつつある村に乗り込んできた社員たちは、「今度 **Hannibal** 市の地図を作製することになったのです」と言いながら測量し、村の有力者たちに「名前を書き入れるのでたくさん買ってください」と勧誘したはずである。予約販売のような形で販売され、一般には売られなかった可能性もある。だからこそ一葉も現存しないのだろう。この地図は限定販売ゆえに特殊な情報が記載された地図だと解釈できる。

Hart & Mapother 社は地図を出版したのだから、詐欺的会社ではなかった。だが彼らは1854年の地図に書き入れた **Hannibal** の名士たちをも測量したことだろう。「この人物は3回名前を書いてやれば10枚地図を買ってくれるだろう」とか、「この人物は地図を買ってくれそうもないので名前を書かないことにしよう」と判断したに違いない。そのしたたかな判断ゆえに名前が記載された土地所有者も記載されなかった人もいた。

地図に名前を残した当時の村の有力者の顔ぶれを何人か確認する。まず、**Zachariah G. Draper** は1828年に **Hannibal** に設立された郵便局の初代郵便局長であった。**Glascocock's Island** に名を残す **Stephen Glascocock** は、**Hannibal** 周辺の土地を1831年に **Thompson Bird** から譲渡された。その後、**Hannibal** 土地開発公社が、**Stephen Glascocock**、**James Hewitt**、**William B. Clifton**、**Paul Anderson**、**Churchill Samuel**、**Jameson Samuel**、**Henry Von Phol**、**Theodore L. McGill**、**James P. Shropshire**、**Zachariah G. Draper** によって結成され、土地を分割していったのである¹³。これらの人物のうちの多くが1854年の地図の上に名前を残している。

この1830年代前半の土地分割に間に合わなくても、後から来て土地を購入し、地図に名前を残した人物がいる。**Archibald Sampson Robards** (1797-1862) がその典型である。彼は上記の地図の36区画内の三ヶ所に名前をとどめている¹⁴。彼が家族と奴隷を連れて **Kentucky** から **Hannibal** に移住したのが1843年である。彼は製粉業で成功し、それを1853年のニューヨークのクリスタルパレス博覧会に出品し最優秀賞を獲得した¹⁵。なお、17歳の **Twain** はこの博覧会を観て、故郷に通信文を書き送ったが、**Robards** のことには言及していない¹⁶。**Robards** 所有の36区画は **Hill Street** と **Rock Street**、**Fourth Street** と **Fifth Street** に囲まれた区画で、旧来の **Hannibal** のはずれになる。しかし彼はそのすぐ北西側の **Palmyra Avenue** に沿った土地も所有しており、先見の明があったと言える。というのも **Palmyra Avenue** は駄馬車が通過する、当時の幹線道路だったのであり、その沿道の土

地は繁栄の可能性があった。こうして、1830年代に Hannibal の土地を手にいれた人びともその後土地を購入した者も、寒村を繁栄させ、Hannibal を有名にした。その事実を土地所有者名入りの地図という形で表現したい人が何人もこの町にいたのである。

Clemens 家は Hannibal で有名な一家だったはずだが、この1854年の地図にその名前はない。Twain の父親 John Clemens は、Missouri 州 Florida にいる時に Monroe 郡裁判所判事に任命された。それで“Judge Clemens”と呼ばれるようになった。Hannibal に移住後、1844年には保安官に選出された。後に1846年に郡巡回裁判所の書記官という有給の職に就ける候補者になった。村で尊敬される人物の一人だった。しかし父親は1847年3月に死去する。父親が生きていた1846年頃から一家は破産状態にあった。当然 Hannibal で土地投機を行なえなかった。さらに、1853年6月に Twain が Hannibal を離れると、その年の秋には残された兄 Orion Clemens (1825-1897) と母親 Jane Clemens はわずかな財産を処分して Hannibal を去った。この地図作成のための測量は53年か54年の夏に行われたと推測されるが、54年であればその時には Clemens 一家の人は誰もこの町に住んでいなかった。53年夏に Hart & Mapother 社の測量士が Hannibal に来たとしても、Orion が編集発行する *Hannibal Journal* 紙は廃刊寸前だった。この地図製作出版社から相手にされなかったに違いない。それで、Clemens の名前は地図にない。

1854年出版の Hannibal の地図はこの町の人々の欲望と繁栄と成功と失敗を秘めた地図だったのである。

3

1854年の Hannibal の地図が人々の欲望と繁栄と成功と失敗を記した地図だとしたら、Clemens 家はこのような地図に名を残す十分な資格があった。というのも、Clemens 家も以前は土地投機をしていたのである。一攫千金を狙った投機は Clemens 家の伝統と言ってもよい。ただその場所は Hannibal ではなく、Tennessee 州であった。

Twain は父親の Tennessee 州での土地投機のことを *Autobiography of Mark Twain* (以下『自伝』と略す)に書いている。父親が Tennessee 州東部で75000エーカー、約30351ヘクタールの土地を400ドルで一括購入したと Twain は自慢している。そしてその土地が売れば自分達はすぐに大金持ちになれる、だから今まじめに働く必要はない、という呪いを子供達にかけたのが Tennessee の土地だと Twain は嘆いて見せている。

父親の土地投機は一家が Tennessee 州 Jamestown に居た1826頃に始まり、1841年まで行なわれた。一家は1839年に Hannibal に移住したので、父親が Hannibal で土地を購入する可能性はあったが、彼が Hannibal で土地を買った可能性は低いようだ。Tennessee の土地により関心があり、Hannibal を有望だとは考えなかったのかもしれない。Tennessee の土地の権利関係が複雑で、ひとつの土地に複数の所有者が登記されていることがあり、

その解決を優先したのかもしれない。いずれにせよ、少なくとも1854年には Hannibal に John Clemens の名前はなかった。先に述べたように、1854年版の地図を作成する時には、落ちぶれた Clemens 家はその作成に積極的に関与しなかった、あるいはできなかったのである。

さらに事実を求めると、Twain が『自伝』に書いた父親の土地投機は、倍以上に誇張された虚構であった。父親は、実際には75000エーカーの半以下の土地しか所有しておらず、しかもその土地は多数の地所に分かれていた。つまり一括購入ではなかった。父親は何度も Tennessee の土地を買い続け、Hannibal では土地を購入しなかったようである。父親は Tennessee で大規模な土地投機を行っていたつもりなのであり、一家もそう認識していた。

Twain は土地に執着していた父親の姿を理解していた。自分の子供たちが労働者として働く必要が無いようにと土地投機を行った父親を理解していた。物書きとしての Twain はそれを率直に表現しなかった。父親が子供たちに呪いをかけたと言ったが、『自伝』では次のように書かれている。

We straightway turned our waiting eyes upon Tennessee. Through all our wanderings and all our ups and downs for thirty years they have still gazed thitherward, over intervening continents and seas, and at this very day they are yet looking toward the same fixed point, with the hope of old habit and a faith that rises and falls, but never dies. (Clemens 2010b, 63)

土地への過度の執着と期待に関して、1854年に地図に名前を書かせた Hannibal の名士達と『自伝』に書かれた Twain 一家とは同じである。どちらも土地に強い執着心を持ち、土地を持つことが立派な市民としての象徴だと考えられた。ただし、Twain の方は少しいやらしくて、たぶん別の意図をもって事実を倍以上に誇張している。1854年の地図の上に John Clemens の名前は記されていなくとも、Twain 一家は土地投機に夢中になり、同時に立派なアメリカ市民は土地を持たねばならないと信じていたのだろう。

父親の愛情を Tennessee の土地への過度の執着と期待として描いた Twain は、同様の遺産を自分の子供に遺そうとした。彼は『自伝』を作っている時、子供たちに多額の印税収入を残してやりたいと願った。主要作品に自伝的注釈を付け加え、別の作品として版權を取り直し、遺産として遺そうと目論んだのである。Twain は結果的にこの計画を断念するが、彼の目論見は父親 John Clemens の Tennessee の土地への期待と実によく似ている。父親と同じことをしているという認識は Twain になかっただろうが、二人とも子供たちに莫大な資産となりえるものを遺したいと考えたのである。

父親の愛情を屈折した表現にした Twain だが、作家としては土地投機熱を客観的に観て、

揶揄した。彼は『自伝』の中で父親の土地投機を呪いとして書くのだが、それを自分達の「怠惰な」生き方の口実として使っている。それでも Twain の作家としての日常生活は決して「怠惰な」ものではなかったものであり、土地投機を茶化しているのだ。*The American Claimant* (1892年出版) の中で Sellers 大佐は土地投機をしていると語る。しかし彼の語りは、いつでもほとんど嘘である。ある発明品にいくら投資している、どこそこの土地を買ったらそこに鉄道がひかれることになった、という作り話を Sellers 大佐は機械のように次々と作り出せる人物である。彼の作り話の結論はいつも決まっていて、いかに自分が重要人物であるか、そのためにいかに金が無いかを訴えることになる。運がよければ彼はその話だけで金を貸してもらえた。投機とそれに酔いしれる惨めなスノップが痛烈に笑ひ者にされている。

土地への執着に対する Twain の批判的態度は小説の中でより複雑に表現されている。例えば、*Personal Recollections of Joan of Arc* (1896年出版) の Joan of Arc も Huck と同様に物質的欲望を示していない。故郷 Dom Remy への愛着を持っていたとしても土地や財産に対する執着はないし、彼女の願望はフランスの国土回復だけである。つまり彼女はフランスという土地に執着した人物だともいえる。フランスの土地がなければ国家が存在しないのだろうし、フランスという国を取り戻すことは土地をイギリスから奪い返すことに他ならない。従って彼女は誰よりもフランスの土地に執着した人物なのだが、この小説の語り手は Joan of Arc が全く無欲の少女だと描いている。

Twain は主要作品の中で土地や金に執着しない人物を描いている。その代表は *Huckleberry Finn* だ。彼は、少なくとも *Adventures of Huckleberry Finn* の中では、St. Petersburg に帰りたとは思っていないし、逃亡奴隷の Jim のように命がけで Cairo という土地を探してもいない。Huck は6000ドルを1ドルと交換するという契約書に署名し、6000ドルを判事に譲渡してしまう。この契約書を作成した判事の子供だましの狡猾さが Huck の無欲さと対比され、批判されている。町の支配的立場の人物も金に目がくらんでいるのだ。

Twain は金に執着する人間をもたくさん描いた。金を追い求めたのは、Tom Sawyer、*Huck Finn* の中の the King と the Duke、*A Connecticut Yankee In King Arthur's Court* の Hank Morgan などだけでなく、*The Prince and the Pauper* の Tom Canty さえも金と力に目がくらんだ人物である。そして Twain がこれらの金や地位に狂った人物達を否定しているのは明らかだ。

Twain 自身は土地投機をしなかったが、それ以外の投機はやった。最も有名なのが James Page の植字機開発への投資である。総額約17万ドル、今日の日本円に換算して約3億円を投資して、もちろん失敗している。そしてもう一つの最も有名な失敗例は、Connecticut 州 Hartford にあった Bell 研究所に投資しなかったことだ。Alexander Graham Bell (1847-1922) がちょうど電話機を開発した1876年頃に Twain に投資を求めたところ、Twain は、また変な発明屋がやって来たと行って、断ったというのである。この失敗談は

Twain が語っているので、創られた失敗談の可能性が高い。自らの失敗談を作品化することで投機熱を嘲笑しているのだ、そして、自らが作品の中でからかい、あるいは否定した、投機に狂う人たちや土地に執着する人たちと、現実世界を生きる自分とがあまり変わらないことが Twain にはわかっている。

Twain 文学のひとつの魅力は、Twain 自身をも含めた人間の愚かしさを笑うことだと言える。金メッキ時代の金に翻弄される人間像とそれからまったく独立しようとした人間像と、両方を彼は描いた。作品の中で嘲笑され、時には否定された人物が Twain 自身の姿でもあった。作家として自己を客観的に観ることができたとも言えるし、そこまで自覚せずに手近な題材を作品に使って暴露的に書いたのだとも言える。

Twain は1854年のこの地図をたぶん見たことがなかっただろう。彼の書簡にも『自伝』にもこの地図への言及はない。この地図が発刊された時、Twain 本人は Philadelphia で植字工として働き、兄と母親は Iowa 州 Muscatine で新聞を発行していた。先に述べたようにこの地図が非常に限定的な地図で、Hannibal とその周辺地域でしか販売されなかったとしたら、しかも村の有力者を中心に購入されたとしたら、Twain の一族がこれを購入した可能性はほとんどない。Clemens の名前がないこの地図を見ていたら、Twain は懐かしさと同時に悔しさも感じ、「ここに名前が記載されている連中のことはよく覚えている。どいつもこいつも田舎の成金にしか過ぎない」と笑い、父親の75000エーカーの土地の広さの自慢をし、自分の父親の欲深さを寒村の名士達と競い合ったことだろう。そしてどちらも土地に執着し、成功を求めた人々だと読者に気づかせるだろう。

Mark Twain が17歳で目撃した故郷が、土地に執着する人々、成功しようともがく人々、失敗し落ちぶれながらも体面を重んずるスノップたち、そうした大人たちの下で成長する子供たちなど、だとしたら、この1854年の Hannibal の地図はそうした人間臭い人々の躍動を秘蔵する地図として読める。Tom や Huck の登場人物の原型の何人かが現実の Hannibal の住人として特定されている。つまり、17歳の青年は既にこの町で十分な人間観察を成し遂げていたのだ。Twain はこの地図を見たことはなかっただろう。それでもこの地図に隠された何種類もの人々の姿を既に深く観察していたのである。

最後に付け加えれば、筆者の所有する1854年の地図の複写はあくまで表面のコピーである。裏面に何が印刷されていたのかわからない。この地図に明示されていないものまで読み解こうとする以上、やはり裏面を読みたい。たぶん現存しないこの地図の現物を探す努力は、表面をもっと深く読む作業とともに、終わらない。

Works Cited and Consulted

- Clemens, Samuel. *No. 44, The Mysterious Stranger*. Berkeley: University of California Press, 1969.
- . 1988a. *Mark Twain's Letters, Volume 1: 1853-1866*. Ed. Edgar Marquess Branch, Michael B. Frank, Kenneth M. Sanderson, Harriet Elinor Smith, Lin Salamo, and Richard Bucci. Berkeley, California: University of California Press, 1988.
- . 1988b. *The American Claimant*. 1922. 東京：本の友社、1988.
- . *Huck Finn and Tom Sawyer Among the Indians and Other Unfinished Stories*. Berkeley, CA.: University of California Press, 1989.
- . *Personal Recollections of Joan of Arc*. 1896. New York & Oxford: Oxford University Press, 1996.
- . *Adventures of Huckleberry Finn*. Berkeley, CA.: University of California Press, 2001.
- . 2010a. *The Adventures of Tom Sawyer*. Berkeley, CA.: University of California Press, 2010.
- . 2010b. Harriet Elinor Smith ed. *Autobiography of Mark Twain. Volume 1*. Berkeley, CA.: University of California Press, 2010. (『マーク・トウェイン 完全なる自伝』、和栗了監訳、東京：柏書房、2013年)
- Hagood, J. Hurley, Roberta Hagood. *The Story Of Hannibal*. Hannibal, MO.: Standard Printing Company, 1976.
- . *Hannibal Yesterdays*. Hannibal, MO.: Hannibal Free Public Library, 1992.
- Ogg, Frederic Austin. *The Opening of the Mississippi: A Struggle for Supremacy in the American Interior*. 1904. New York: Haskell House Publishers, 1969.

* この論文は、「1853年の Missouri 州 Hannibal の地図、その経済的、文学的作成の試み」と題して、甲南大学第29回総会・研究発表会（2013年7月6日、於甲南大学）にて口頭発表した原稿を書き直したものである。

¹ 2011年8月に筆者を Roberta Hagood に紹介してくれ、会わせてくれた、Hannibal Free Public Library の Director、Hallie Yundt-Silver に心から感謝する。貴重な資料の複写と使用を認めて下さった Roberta Hagood にも心より感謝する。

² *Tom* の中にも *Huck* の中にも豚が登場する。特に *Huck* の7章で豚が *Huck* の身代わりに殺されている。*Huck* の父親 Pap Finn は豚と寝ているとある。以上のことから *Hannibal* で豚に関する産業が盛んだったと分かる。Hagood 1979の36ページも参照。

³ 留置場は *Tom* の23章にある。Second Street のはずれにあったが、1853年1月27日に焼失した。Hagood 1979の47ページ、および Clemens 2010b の157ページから158ページ、および514ページも参照。

⁴ Twain は測量士について、*Life on the Mississippi* (1883年出版) 中の挿話 “The Professor’s Yarn” の語り手である教授が、以前測量士をしていた、と語っている。

⁵ Hagood 1979の31ページ参照。

⁶ Hagood 1979の39ページ参照。

⁷ 生前未出版作品の “Tom Sawyer Among the Indians” では、Tom が内陸の平原の霧の中で迷子になり、危うく発狂しそうになる (Clemens 1989、第7章、63ページ～70ページ)。

⁸ Hagood 1979, 19ページおよび22ページ参照。

⁹ Hagood 1979, 35ページ。

¹⁰ Hagood 1979の301ページ参照。

¹¹ 出典は、

[http://cartweb.geography.ua.edu:9001/StyleServer/calcrn?cat = North%20America%20and%20United%20States&item = States/Kentucky/Kentucky1858a.sid&wid = 500&hei = 400&props = item\(Name,Description\),cat\(Name,Description\)&style = simple/view-dhtml.xsl](http://cartweb.geography.ua.edu:9001/StyleServer/calcrn?cat = North%20America%20and%20United%20States&item = States/Kentucky/Kentucky1858a.sid&wid = 500&hei = 400&props = item(Name,Description),cat(Name,Description)&style = simple/view-dhtml.xsl) で、アクセス日は2013年7月1日。

¹² 出典は、

<http://www.historicmapworks.com/Map/US/48068/Hannibal+1869+Bird+s+Eye+View+24x30/Hannibal+1869+Bird%27s+Eye+View/Missouri/>。アクセス日は、2013年7月2日。

¹³ Hagood 1979、22ページ。

¹⁴ 以下に拡大図を示す。

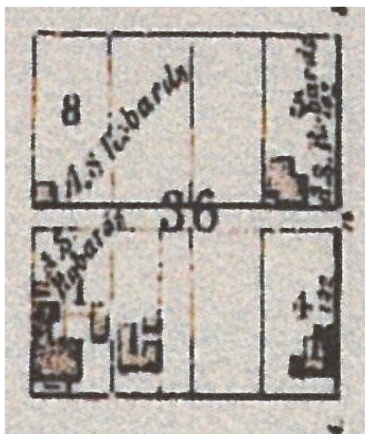


図8

¹⁵ Clemens 1989、344ページ。

¹⁶ 1853年8月24日付、Samuel L. Clemens から Jane Lampton Clemens 宛書簡参照 (Clemens 1988、3ページ～9ページ)。Twain は A.S.Robards の息子、John Lewis Robards (1838-1925) と同じ学校に通っていたようで、Robards 家の繁栄のことはよく知っていたと考えられる。Twain がクリスタルパレス博覧会に出品された Robards の小麦粉を意図的に無視したのか、単に見落としただけか、不明である。

¹⁷ *Autobiography of Mark Twain* では以下のように語られている。

When my father paid down that great sum, and turned and stood in the courthouse door of Jamestown, and looked abroad over his vast possessions, he said: "Whatever befalls me, my heirs are secure; I shall not live to see these acres turn to silver and gold, but my children will." Thus, with the very kindest intentions in the world toward us, he laid the heavy curse of prospective wealth upon our shoulders. (Clemens 2010b, 61)

¹⁸ Clemens 2010b、469ページ～471ページ。